

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02854

研究課題名(和文)EPA介護福祉士候補者のためのやさしい日本語を用いた専門語彙学習教材の開発

研究課題名(英文)Development of Learning Materials for Technical Terms of Care Specialties using Easy Japanese for EPA Care Worker Candidates

研究代表者

布尾 勝一郎(NUNOO, Katsuichiro)

佐賀大学・国際交流推進センター・准教授

研究者番号：90448019

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文):EPA(経済連携協定)に基づく介護福祉士候補者など、外国人介護労働者の受け入れが進んでいる。彼女ら/彼らが日本の介護福祉士国家試験を受験するにあたって、介護の専門用語の習得が高いハードルとなっている。そこで、介護専門用語613語を取り上げ、やさしい日本語による説明を付与した語彙学習教材を開発した(『やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集』(<https://yasanichi-kaigo.com/en/about.html>))。国家試験に対応していること、やさしい日本語を用いることで、学習者の母語を問わず学習を可能にした点、英語及びインドネシア語による翻訳が付されている点の特徴である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外国人介護労働者が日本の介護福祉士国家試験の受験に向けて学習する際に、介護専門用語を学習必要がある。それらの用語を平易な日本語で理解しつつ、英語とインドネシア語でも学習できる教材となっている。とりわけ、周囲から十分な学習支援が得られず、自学自習を迫られている労働者に裨益すると考えられる。また、彼女ら/彼らの学習支援者にとっても、平易な日本語で専門用語を説明するために、有益な参考資料となるであろう。

研究成果の概要(英文):The acceptance of foreign care workers, such as the care worker candidates under the EPA (Economic Partnership Agreement), is increasing. Learning technical terms for nursing care is a high hurdle for them to pass the national exam for nursing care workers in Japan. Therefore, we took up 613 technical terms for nursing care and developed vocabulary learning materials with explanations in easy Japanese ("A glossary of nursing care terminology to learn in easy Japanese." (<https://yasanichi-kaigo.com/en/about.html>)). The material is characterized by the following features: (1) it corresponds to the national examinations, (2) the use of easy Japanese makes it possible for learners to study regardless of their mother tongue, and (3) it is translated into English and Indonesian.

研究分野：日本語教育

キーワード：介護福祉士候補者 経済連携協定(EPA) 専門語彙教材 専門日本語教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

EPA (経済連携協定) に基づき、インドネシア、フィリピン、ベトナムから介護福祉士候補者 (以下、「候補者」) の受け入れが行われている。候補者は、約1年間の日本語研修の後、日本の介護施設で就労しながら学習を進めて介護福祉士国家試験 (以下、「国家試験」) を受験し、合格すれば介護福祉士として日本で働き続けることが可能になる。そのため、国家試験合格が大きな目標の一つとなっている。2012~2016年の国家試験の合格率の平均は、日本人も含めた全体が62.4%である一方、候補者は41.9%であった。

介護専門用語学習は、その大部分を、候補者が日本語研修を終え施設で就労を開始した後に学習するため、多くは自主学習という形をとらざるをえない。受験対策のための教材は、日本語母語話者を対象としたものがほとんどであるため、候補者は通常の日本語学習に加え、介護業務に伴っての困難を有することになる。また、介護施設等で候補者の学習支援を担当する介護関係者 (介護福祉士、社会福祉士、ケアマネジャー等) も日本語非母語話者に対する支援の経験がなく、試行錯誤を強いられている場合が多い (齊藤ほか 2013)。

さらに、来日前の日本語学習歴の有無や、施設での学習段階により、候補者の日本語レベルや、介護の専門知識のレベルがさまざまであることも、支援を困難にしている。国家試験で用いられる漢字のほぼ8割が旧日本語能力試験の2級以上 (級外、1級、2級) の漢字であり、候補者は高度な漢字知識が求められる (中川 2010)。また、国家試験では全体の約3分の2の問題でカタカナ語が用いられており、英語以外の語源のもの、和製英語等が多く含まれ、国家試験の内容理解にも影響を与えている (中川・齊藤 2014)。国家試験合格には、これらの漢字やカタカナを含む介護専門用語の習得が決め手となる。

2. 研究の目的

介護福祉士国家試験に対応するための専門用語の語彙学習教材に必要な条件として、以下の5点が考えられる。

- (1) 介護福祉士国家試験に頻出する専門用語を効率よく学ぶことができる。
- (2) 候補者が、自国にない日本独特の介護の概念を理解することができる。
- (3) 候補者が理解しやすい言語で学ぶことができる。
- (4) 学習支援者がいない場合でも、一人で学習することができる。
- (5) さまざまな学習段階の候補者に対応することができる。

上記を満たす教材はまだ限られている状況であった。検討の結果、報告者らは、これら5つの条件を満たすものとして、候補者が理解しやすい「やさしい日本語」による解説を付したうえで、それを候補者の第一言語 (インドネシア語・英語・ベトナム語) に翻訳した用語集という形態が有効であるという結論に至った。庵功雄氏らによる「やさしい日本語」への書き換えの手法を参考に、合計1年間の日本語研修を経た候補者を主たる学習者として想定し、日本語能力試験N3レベルの読解能力があれば理解できる日本語で記述することを目指した。

3. 研究の方法

(1) まず、候補者が優先して学習すべき専門用語を選択した。本研究課題の代表者・研究分担者らがすでに開発し、一般公開している漢字語彙学習ウェブサイト「介護の漢字サポーター」 (<http://kaigo-kanji.com/>) の掲載語彙2540語の中から、日本の介護に特有の用語や、制度に関する用語など、直訳して他言語に翻訳しても理解が困難だと思われる介護専門語彙である。国家試験への出現頻度も参考にした。

(2) 具体的には、Web公開されている語彙の難易度判定ツール「チュウ太のレベルチェッカー」 (<http://basil.is.konan-u.ac.jp/chuta/level/>) などを利用して「やさしい日本語」を作成する作業手順を定めた後、外部の福祉の専門家の協力を得て、「やさしい日本語」による説明を付した。

(3) 上記と併行して、研究分担者および協力者が、介護福祉候補者向けの日本語指導の中で専門用語の説明を用いる形で、試用を行った。また、それらの解説について、研究チーム内の福祉を専門とするメンバーと日本語教育を専門とするメンバーが、内容面・日本語面のチェック作業を行い、協議しつつ、妥当性のチェックや、教材に含める専門用語の取捨選択を行った。

(4) 最終的に、教材であつかう専門用語として613語を確定した。

(5) 「やさしい日本語」による説明を、英語およびインドネシア語に翻訳した。

(6) 見出し語、やさしい日本語による説明、英語訳、インドネシア語訳に加え、出題される科目や語の属性を示す情報も付加し、教材としてWebサイトに公開した。

4. 研究成果

研究成果として、語彙教材を以下のWebサイトに無料で公開している。

『やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集』(<https://yasanichi-kaigo.com/>)。PC、タブレット端末、スマートフォン等で利用可能である。画面の例を、以下の図1～図3に示す。

図1 検索画面

やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集

English Bahasa Indonesia

キーワードからさがす

検索キーワード

科目からさがす

人間の尊厳と自立
人間関係とコミュニケーション
社会の理解
介護の基本
コミュニケーション技術
生活支援技術
介護過程
発達と老化の理解
認知症の理解
障害の理解
こころからのだのしくみ
総合問題
医療的ケア

ハッシュタグ

#障害 #事業 #疾病 #免許・資格・職種 #法律名・条約名 #社会福祉全般 #サービス #症状 #権利擁護 #施設・機関 #施設 #介護福祉全般 #歴史 #治療・リハビリテーション #身体機能 #制度名 #医療全般 #状態(身体) #医療・福祉全般 #食事 #援助技術 #器具・機械・道具 #労働 #身体部位・器官 #法律用語全般 #情緒・感情・性格 #排泄 #教育 #コミュニケーション #身体 #その他 #状態(精神) #支援計画 #移動 #精神 #記憶 #処置・対処 #体位 #精神保健 #知覚 #物質名 #居住環境の整備 #記録 #入浴・清潔保持 #睡眠 #身じたく #実習・研修 #検査 #家事 #感染症 #終末期 #理想 #訓練 #老化 #活動 #反応(防衛) #身支度～睡眠まで全て対象 #地域 #虐待 #規範 #組織 #国家基準 #高齢者 #環境 #発達

サイトについて

©2021 やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集

図2 科目別表示

やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集

English Bahasa Indonesia

科目：人間の尊厳と自立

IL運動
アウトリーチ
悪徳商法
異食
インフォームドコンセント
ADL
介護支援専門員
介護福祉士法
介護保険施設
回想法
感情の明確化

図3 検索結果の例

やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集

English Bahasa Indonesia

もうろうあじしせつ
盲ろうあ児施設

Facility for blind or deaf children

#施設 #障害

耳が聞こえない子供や目の見えない子供が入所し、自立するために必要な支援を受ける施設のこと。現在の児童福祉法では、「障害児入所施設（福祉型）」という名前になった。

This is a facility that deaf or blind children are admitted to and provides necessary support for them to be independent. It is named "Facility for children with disabilities (welfare type)" in the current Child Welfare Law.

[サイトについて](#)

©2021 やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集

【参考文献】

- 齊藤真美・中川健司・角南北斗・布尾勝一郎（2013）「EPA 介護福祉士候補者学習支援で求められるもの」『2013 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、pp. 251-256.
- 中川健司（2010）「介護福祉士候補者が国家試験を受験する上で必要な漢字知識の検証」『日本語教育』第 147 号、pp. 79-92.
- 中川健司・齊藤真美（2014）「介護福祉士国家試験におけるカタカナ語の特徴」、『専門日本語教育研究』第 16 号、pp. 73-78.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 布尾勝一郎、中川健司、野村愛、奥村匡子
2. 発表標題 「EPA介護福祉士候補者のためのやさしい日本語を用いた専門語彙学習教材の開発」
3. 学会等名 日本語教育学会（2019年度日本語教育学会春季大会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中川 健司 (Nakagawa Kenji) (20382830)	横浜国立大学・国際戦略推進機構・教授 (12701)	
研究分担者	中村 英三 (NAKAMURA Eizo) (00549991)	長野大学・社会福祉学部・教授 (23602)	
研究分担者	宮本 秀樹 (Miyamoto Hideki) (40453401)	長野大学・社会福祉学部・教授 (23602)	
研究分担者	野村 愛 (Nomura Ai) (90775090)	首都大学東京・人文科学研究科・客員研究員 (22604)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	S R I B U D I L E S T A R I (SRI BUDI LESTARI) (80833342)	立命館アジア太平洋大学・言語教育センター・講師 (37503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関